

瑞

六

13

不取

番 號		件 名		大 臣		決 裁		主 務 局		大 臣 官 房	
可事機要		西塞整理方針案						受領 明治 年 月 日 提出 明治 年 月 日 受領 明治 年 月 日 了結 明治 年 月 日		主務局長 	
廳 名		関入付		次 官		參 事 官		聯 帶 局 長		主 務 課 長	
東 洋 本 部								聯 帶 課 長 		主務課長 	
				主 務 副 官		主 計		審 案 筆 記 者		主 務 課 員	
											

大臣ヨリ余謀總長ニ付四答
 要案整理方針按テ協議ノ付大體ニ於テ異
 存ニクモ及ニ回答ス

迄テ本按方一ノ才二項旅順大連ノ防備ハ將
 來國防ノ發展ニ應ジ多少變更ヲ要スルコト
 ニモ決計スル念ヲ持ス

陸軍省 陸機密第一二一號

十月廿七日

0960

軍工

軍事

次官

大臣

陸軍省機密第三号の號
十月廿三日

參謀總長
參謀第五八九號第一

明治四十二年十二月二日

參謀總長 伯爵 奧 保 鞏

此中官室整理方針事に準じ、要官室、

職員及編成、教習等、改訂し、改訂後、



陸
軍

0461

要塞整理方針案



陸部内第拾

明治四十二年十二月二十日
陸軍部第一節

要塞整理方針案

帝國現時ノ要塞ハ曩ニ守勢的國防方針ニ基キ設定セルモノニシテ爾來國勢著シク發展シ且攻勢作戰ヲ以テ國防ノ本領トスルニ至リタル今日ニ於テハ作戰上ノ要求ニ適合セサルモノ尠カラス從テ之ヲ配置ニ改變ヲ加フルノ必要ヲ認ム加之艦隊勢力ノ偉大ナル増進並兵器及築城ノ顯著ナル進歩ハ要塞威力範圍ノ擴張ト要塞編成ノ改善ヲ促スニ至レリ是故ニ要塞整理ノ必要ヲ生シタル所以ニシテ其ノ整理ノ爲ニ準據スヘキ要目ヲ掲クレハ概ネ左ノ如シ

一、大陸ニ擴張シタル帝國保護ノ國土及利權ヲ擁護シ且大陸ニ向テスル作戰ヲ容易ナラシムル目的ヲ

以テ韓國南岸ニ堅固ナル陸海軍ノ根據地ヲ設定
スルヲ要ス之ヲ爲鎮海灣ノ防備ヲ増加シ釜山
ヲ併セテ陸軍ノ上陸地ヲラシメ且對馬及佐世保
ト相俟テ對馬海峡ノ連絡ヲ確實ニ保持スル
ヲ要ス

旅順大連ノ防備ハ將來滿洲及北清地方ニ向テ
スル作戰ノ爲重要ノ價值ヲ有ス

ニ兵略上重要ナル海峡ニ新ニ防備ヲ施シ以テ國
土相互ノ連絡ヲ保持シ且海峡内面ニ於ケル制
海權ノ掌握ヲ確實ニシ以テ艦隊ノ策動ヲ容
易ナラシムルヲ要ス

新ニ津輕海峡ニ防備ヲ施シテ敵艦ノ航通ヲ要
扼シ對馬海峡ノ諸要塞ト相待テ日本海ノ制海

權ヲ確實ニシ又新ニ豐豫海峽ニ防備ヲ施シ以テ
由良及下關要塞ト相待テ全内海ノ領有ヲ確
保スルヲ要ス然ルトキハ其ノ内部ニ在ル要塞ヲ
撤廢シ或ハ其ノ防備ノ大部ヲ除却スルコトヲ得ヘシ
三、作戰方針ニ基キ新ナル要塞配置ヲ定ムルト共ニ
各要塞ノ任務及防禦ノ目的ヲ攻究確立スルヲ
要ス

四、艦隊ノ勢力増大シタル結果現在ノ要塞中其ノ
掩護ノ下ニ在ル錨泊地ハ狹隘トナリ之ヲ防禦
線ノ外方ニ移スヲ要スルニ至レリ斯ノ如キ要塞
ノ防禦線ハ之ヲ擴張推進スルノ必要アリ例ハハ
對馬要塞ノ如キ是ナリ
五、海軍砲ノ威力著シク増大シタルヲ以テ遠大ノ距

離ヨリ港灣内ヲ砲撃シ得ルニ至リ之ヲ防禦スル爲地形ヨリ防禦線ヲ前進セシムルカ又ハ之ニ對抗スヘキ火炮ヲ裝備スルヲ要ス例ハ佐世保要塞ノ如キ是ナリ

六、現用要塞備砲ノ大部ハ舊式ニ屬シ其ノ威力不充分ナリトス故ニ此際要塞防禦ノ目的ニ適フヘキ火炮ノ種類ヲ定ムルヲ要ス

七、我々陸海軍勢力ノ増大セル結果多クノ要塞ニ於テハ開戦後直ニ陸正面ヨリ敵ノ眞面目ノ攻撃ヲ受クル如キハ殆トアリ得ヘカヲサル狀況トナレルヲ以テ該正面ノ防備ハ通常單ニ敵ノ陸戦隊ノ攻撃ニ對スルモノニ止メ其ノ他ハ概ネ平時ヨリ設備スルヲ要セサルヘシ然レトモ敵ノ本攻ヲ豫期スル要

塞ニ在リテハ海正面防禦線ヲ定ムルニ方リ他日採
ルハ陸正面防禦線トノ連絡ヲ顧慮スルヲ要ス
八、整理上廢止ニ屬シタル要塞若ハ堡壘砲臺ニシテ
戰時特ニ必要ト認メラルヘキモハ適當ニ之ヲ保存
シ置クヲ要ス

九、要塞ノ整理ヲ行フニ方リ最も注意スヘキハ經費
ヲ節約スルニ在リトス之カ爲メ既設要塞中存
置スヘキ堡壘砲臺ノ兵備ハ勉メテ在來ノモノヲ
使用シ又新設スヘキ堡壘砲臺ニ於テモ任務上許
ス限り從來ノ火砲ヲ充用スルヲ要ス

十、要塞整理ハ其ノ著手後約十々年間ヲ以テ完了ス
ルヲ期スルヲ豫想シ之カ著手順序ヲ規定スルヲ要ス